

最新事情

企業で働く人々へのインタビューから、
働くことへのきっかけをつかんでほしい

文教大学湘南キャンパス

(神奈川県茅ヶ崎市)

湘南と越谷の二つのキャンパスを持つ文教大学。湘南キャンパスでは情報学部、国際学部、健康栄養学部の学生が学んでいる。インターンシップも導入しているが、なかなか積極的に参加できない学生がいることが悩みという。平成23年度から、学生たちが企業を訪問し、第一線で活躍する社会人にインタビューを行う新たな取り組み「文教キャリアeye」を始めた。その成果とは。

積極性を引き出す取り組み 「文教キャリアeye」

文教大学湘南キャンパスのキャリア支援課では、平成23年度から新しい試みを始めた。名付けて「文教キャリアeye」。同学の学生が企業を訪問し、そこで働く社会人に就業観や仕事の内容、社会人としての責任とは何かをインタビューする取り組みである。情報学部の石井信明教授は、この取り組みを主導する一人だ。石井教授は狙いを次のように説明する。「近年、自ら社会に目を向け、積極的に行き行く学生が少なくなりました。その結果、あまり社会のことを知らず、具体的にどんな企業で働きたいかと問うと有名B to C企業（対消費者ビジネス）の名前しか挙がらないまま、就職活動に

湘南キャンパス

「文教キャリアeye」を推進する
情報学部情報システム学科の
石井信明教授



入ってしまう。この活動が、社会に向けて広く関心を持つきっかけになればと考えています。この「文教キャリアeye」には三つの目的がある。一つ目は、社会に目を向ける機会を提供すること。健康栄養学部には実習があり、国際学部・情報学部には選択科目としてインターンシップもあるが、就業意識と社会人基礎力強化を図るプログラムとしてもう少し気軽に参加できるように、事前研修も含めて数日間で行える企業体験の場を作ることにしたのだ。

二つ目は、学内で共有できる体験にすること。インターンシップには事後レポートや体験発表会があるが、基本的には参加した学生同士でしか共有できない。しかし、せっかくの貴重な体験を参加していない学生とも共有したいと、企業インタビューの様子や学生の取材後記を、写真とレポートにまとめて同学のウェブサイトで公開することにした。

そして三つ目が、学外から評価を得ること。企業や高校生にも同学のキャリア支援の取り組みを広く知ってもらいたいという期待がある。「文教キャリアeye」の流れは次表の通りだ。

- ①事前講習（240分）プロジェクト趣旨説明、取材の進め方の説明、企業・業界研究、取材内容確認/役割ごとのロールプレイ、社会人基礎力向上のためのビジネスマナー
- ②企業への取材 記念撮影（1時間半〜2時間）
- ③振り返り講習（90分）取材内容の整理、共有
- ④お礼状作成、取材記事の執筆（800字）

プロジェクト専任コーディネーター：藤原さゆり氏

対象は1〜3年生。教員が受け入れ企業を選

湘南キャンパスキャリア支援課の
西澤秀行課長代理



平成24年度「文教キャリアeye」に参加した情報学部学生。後列左から黒原僚介さん（経営情報学科4年）、鴻巣裕貴さん（同4年）、難波祥貴さん（同3年）、前列左から佐藤野乃花さん（広報学科4年）、渡部杏実さん（同4年）、遠藤彩加さん（同4年）、青木南実さん（同4年）



定し、希望者を集めて、事前講習を行った上で先方に赴く。この2年間で8回行い、約40名の学生が参加した。

働くことの楽しさや 充実感を感じた学生たち

実際に企業へのインタビューを行った情報学部の学生に話を聞いた。

小売業の株式会社丸井グループを訪問したのは、広報学科4年生（当時は3年生）の渡部杏実さん、遠藤彩加さん、青木南実さん、佐藤野乃花さん。全員が酒井信講師のゼミ生である。

インタビューに答えてくれたのは、同期入社だという広報と人事の担当者。学生もよく知っている企業だが、実際に働いている社員の方々の仕事の幅の広さややりがいについて聞き、新たな一面を見出したようだ。

酒井ゼミではその後、授業で学んできたこととインタビューの経験を生かし、先方に向いてプレゼンテーションを行った。これには丸井グループの社長、広報室長も同席したそうだ。

「特に印象深かったのは、社員の方々の仕事に対する姿勢です。『あなたにとって丸井とは』との質問に、『好きな場所』『人生そのもの』という答え。一生懸命働いている人だから言えることだと思います。つらいことがあっても、それを乗り越えることも社会人のやりがい、楽しみなのだと感じられました」（渡部さん）。

「丸井グループの経営理念『人の成長＝企業の成長』を、お二人がそのまま体現しているのがとても印象に残りました。また、お二人とも会社を『居心地がいい場所』とおっしゃっていて、私もそういう場所を見つけない、会社のために働きたくなるようなところに勤めたいという気持ち膨らんできました」（遠藤さん）。

「インタビューでは場の雰囲気作りの大切さを感じました。後日のプレゼンテーションでは、役員の会議室を使わせてくださったり、改善点などを提案すると社長も真剣に話を聞いてくださいました。その様子に、私たちのことを社人と同じように扱ってくださっているのを感じ、

じ、気持ちが引き締まりました」（青木さん）。

「私は後日のプレゼンテーションだけ参加したのですが、資料をまとめるために丸井グループについて研究したところ、販売のイメージしかなかったけれど、会社にはいろいろな仕事があるのだと分かり、小売業にも興味湧いてきました。プレゼンテーションは達成感があり、こんなふうに関心をやみ遂げることが仕事なんだと感じました」（佐藤さん）。

一方、経営情報学科3年生（当時は2年生）の難波祥貴さん、4年生（当時は3年生）の黒原僚介さん、鴻巣裕貴さんは、日本発条株式会社で、同学情報学部1期生でもある広報担当者インタビューを行った。こちらはB to B（企業間ビジネス）を主とする自動車部品メーカーであり、学生にとっては全くなじみがなかったが、大先輩ということもあって、働き方、生き方そのものに刺激を受けたようだ。

「訪問前は、3人の中であまりコミュニケーションが取れていなかったのですが、当日来るはずだったもう一人のメンバーが参加できなくなり急ぎよ相談。結果的には『チームワークがよかった』と言っていたとき、コミュニケーションの大切さを肌身で感じました。仕事の喜びとは『いろんな人と会い、接すること』とおっしゃったのですが、少しそれを感じることができました」（難波さん）。

「話してくださった方は大先輩で年代も大きく隔たっているだけに、長年働いてきた人ならで

最新事情 27 文教大学湘南キャンパス

はの、仕事に対しての考え方を聞くことができ
ました。また、取材自体が私にとっては未知の
ことでしたが、初めてでもしっかりと準備すれば
できるという自信が付きました。これまで、相
手に気持ちよく話してもらうなんて考えたこと
もなかったのですが、コミュニケーションの取り方
について考えが変わりました」(鴻巣さん)。

「お話を伺って、積極的に自分から行動するこ
とが大切だと気付きました。インタビュー後
は、資格取得のための講習に申し込んだり、何
でもできることからやろうと思って行動してい
ます。コミュニケーション面でも、知らない人
にもできるだけリラックスして声を掛けるよう
にしたり、工夫するようになりました。インタ
ビューに参加したおかげで、自分の殻を破るこ
とができたと感じています」(黒原さん)。

口々に自分の体験を語る学生たちを見守り、
石井教授は顔をほころばせる。彼らの言葉から
大きな成果を感じたようだ。

秘書検定もきっかけの二つ
次の目標への足掛かりに

「文教キャリアeye」と並び、資格取得も社会
に目を向けるきっかけの一つだ。同学では生涯
学習課が資格取得の講座を開講し、支援を行っ
ている。秘書検定講座も毎年開講しており、自
ら受験しようという意識の高い学生が受験して
いるので、しっかりと内容を理解し、身に付け
ているようだ。受験するのは前期の2・3級講

座、後期の準1級講座の受講者だけでなく、個
人で申し込む学生もおり、毎年約50名、多いと
きで70〜80名ほどが受験している。

「秘書検定ではビジネスの基礎を学ぶことがで
きるの、キャリア支援課では面談の際、まだ
目標が定まっていない学生に受験を勧めていま
す。秘書検定受験を一つのきっかけとして、
次の目標、就職活動に向かっていくてくれれば
と願っています」と話すのは、湘南キャンパス
キャリア支援課の西澤秀行課長代理だ。

3年生になるとキャリア支援課職員との一対
一の面談が行われる。ユニークなのは「キャリ
アサポーター制度」。職員には相談しづらいと
いう学生のため、内定が決まった4年生がキャ
リア支援課に常駐し、ボランティアでアドバイ
ザーを務めている。「先輩になら相談しやすい
のか3年生もよく利用しますし、内定が出たら
自分もサポーターになりたいという学生もいま
す。キャリアサポーターを務めた学生は卒業し
ても後輩のために話をしに来てくれたり、交流
が続いています。愛校心がある学生が多いのは
うれしいことですね」(西澤氏)。

同学の学生は、派手さはないが何事もコツコ
ツ真面目に取り組むタイプが多いという。卒業
生に対しては、企業から「地道に働き結果を出
す人材」という評価が寄せられているようだ。
「学生は総じて控えめ。人より一歩先に出よう
とする力を発揮してほしい」とは西澤氏のさら
なる希望である。



日本発条でのインタビュー。
先方は情報学部の第1期卒業生。
大先輩から、社会に出てからの
意識の持ち方も教わった



丸井グループでのインタビュー。
販売だけでなくさまざまな仕事
があることや、仕事のやりがいにつ
いて聞くことができた



事前講習、取材当日の立ち会い、振り返り講習は、
専任コーディネーターが一貫して学生をサポート

